

地域おこし協力隊とは、総務省が平成21年度から取り組んでいる制度で、都市部の意欲ある人材が地方へ移住（最長3年）し、地域力の維持・強化を目的とした支援活動を行うものです。

人の手がつくりだす 森の風景

地域おこし協力隊として林業を仕事とするようになってから約1か月が経ちました。休憩時間に切り株に腰を下ろし、斜面を登ってくる風を体感じたり、その風が起こした葉擦れや木の幹のきしむ音に耳を傾けたり、あるいは鳥の鳴き声や生き物の気配に注意を払ったりと、大好きな自然の中に身を置き、体を動かしながら過ごす毎日に喜びを感じています。

そんな中でも、特に心に残っている風景が3つあります。そのうちの2つは作業現場で目にしたものです。下草刈り¹を終えたスギやヒノキの苗木が植栽地の「先輩たち」に見守られながら、真っ青な空に伸びていくようにする様子。そして、間伐²後の森に西日が差し込み、木漏れ日が地面のシダや針葉樹の樹皮を温かな黄色い光で照らしている様子です。

もう1つは、5月23日に愛宕山で開催された「第12回カスミ共感創造の森 植樹祭」でのものです。当日、笠間広域森林組合の運営スタッフの補助として参加しました。植樹祭に参加した親子連れやカスミの新入社員などの皆さんが、急斜面で足を滑らせそうになりながら一生懸命に苗木の植樹をしていたり、交代しながら手鋸で切り込みをいれた木が倒れた際に大きな歓声や拍手が起こつたり、楽しそうな様子に私も胸が温かくなりました。

これらの風景がなぜ心に残ったか考えてみると、どれも単にありのままの自然の景色やその中での経験ということではなく、人と森林が関わり合い、森林に手を加えるからこそ生まれたものであることに気がきました。

林業という仕事は適切に森林を管理・利用していく中で、そうした「人が手を加えるからこそ」の美しい風景を生みだしたり、誰かにとつての特別な経験を提供したりできる、あるいはその手助けができるものだと思います。そして、それは林業の大きな魅力の1つである、というのが、「林業の魅力発信」に取り組みむ私がこのひと月で得た気づきです。

今後まだまだ出会っていない・気づいていない林業の魅力に目を光らせつつ、日々安全に作業に従事していきたいと思っています。

¹下草刈り…植え付けた苗木が一定の高さになるまでの間、周囲の雑草木類の成長に負けないよう、雑草木類を刈ること。
²間伐…森林の成長に応じて適切な樹木の密度を維持するため、樹木の一部を伐採すること。



ふるきりょう 古木 領 隊員 33歳 千葉県出身



「森林組合」による支障木伐採の様子



植栽地の様子

協力隊の日々の活動をSNSで発信中！



フェイスブック



インスタグラム

問 企業誘致・移住推進課（内線595）